

華北農村調査の記録

—2014年9月, 2015年8月河北省農村—

河野 正

I 調査概況

本報告は2014年9月と2015年8月に、中国河北省唐山市及び秦皇島市の農村を中心に行った聞き取り調査の記録である。調査対象とする地域は河北省の中で「冀東」と呼ばれる地域であり、河北省の中でも東北に近く、古くから多くの農民が旧満洲を始めとする各地に出稼ぎに行っていた。加えて、満鉄調査部による農村調査の記録である『中国農村慣行調査』の対象村である昌黎県侯家営もこの地域に属しており、旧来の村落の状況もある程度明らかな地域である^[1]。

また今回聞き取りをした秦皇島市盧竜県は、人民共和国成立後に行われた土地改革で「左傾」が発生したことで知られる地域である^[2]。人民共和国初期の農村改革を考える上でもこの地域の土地改革は重要であると言え、ここでは土地改革を中心に聞き取りをした。

なおプライバシー保護のため、本稿では人名・地名はアルファベット表記としてある。地名は県までは実名を表記し、村名をアルファベットにしてある。例えば「十里店村」であれば「S村」、人名は例えば「毛沢東」なら「MZD」と表記する。またインフォーマントの年齢は全て聞き取り当時のものである。加えて、「解放」という単語は本来その地域が中国共産党の統治下にはいることを意味する、バイアスのかかった言葉であり、使用を避けるべきであるが、農民が頻繁に使用する言葉であり、代替できる簡潔な単語もないため、「」付きで使用するものとする。なお、本調査は中国河北省・唐山学院の協力を得た。

II 聞き取り内容

1 河北省唐山市玉田県 D 村

(1) LQH

2014年9月20日 午後

インフォーマント年齢: 80歳 亥年

エゴについて

- ・父の名はLHTで農民だった。母はLL氏^[3]で30里ほど離れたW村の人。
- ・学校には小学校1年生から初級中学校まで通った。小学校は村の小学校で56年9月に卒業, 初級中学校はL鎮(この地域の中心)の学校で1959年に卒業。
- ・卒業後は遼寧省の黒山県(錦州市)に行って水利局で働いた。幹部ではなく労働者。
- ・エゴの土地改革の時の成分は富農であり, 成分が悪かったために1965年に村に戻る。
- ・その後文化大革命が終わって76年から教員になった。エゴは文化がある人だったので推薦されたため。
- ・土地改革の時は7人家族で2頃(200ムー)の土地があった。生活は「可以」。家族は妹が2人。上の妹は現在ハルビンにいる。下の妹は既に死去。両親と祖母。男の兄弟はエゴ含めて3人。エゴは次男。しかし弟は早くに死去。
- ・土地200ムーのうち40ムーが葦畑。
- ・「解放」前, ラバ1頭, 大車1台, 小車1台を所有。大車は作物などを運ぶのに使った。小車は村の人の結婚などに使う。めでたい時だけで, 葬儀などには使わない。使用する際には金を取るのではなく贈り物をもらう。これらの農具や家屋は土地改革で取り上げられた。家の土地は現在村の学校になっている。なお, エゴはこの学校の元教員。
- ・土地も取り上げられ, 1人当たり3ムー, 21ムー残された。
- ・エゴの家では「解放」前に長工を雇っていた。長工は外地の人も本村の人もいた。外地の人はL村の人。雇われた期間は3~4年。もっと長い人, 一生涯働く人も存在。
- ・文化大革命の間は農業をしていたが生活は苦しかった。1年間で15元も使えない程だった。富農のため紅衛兵にならなかった。

村の「解放」と土地改革, 村の農業・副業, 信仰

- ・村は1947年に「解放」。1948年に土地改革。エゴの他に2戸の富農がいた。地主はいなかった。一番上が富農。

- 他の2戸の富農はLBとLDC。どちらも死んだが、LDCは子孫がまだ村にいる。2戸の富農はエゴと同じ生産隊であり、子ども同士一緒に遊んだ。
- 村には蓆を編む副業や豆腐作りの副業があった。蓆は供銷社に売った。供銷社に売ったが集団の副業ではなく個人の副業だった。「解放」前からあり、「解放」後も特に変化はなかった。蓆を編む副業は村の多くの人がやっており、エゴもやっていた。
- 富農のLBはもともとL鎮で布を売る副業をしていた。
- 蓆を編む副業は、2007～2008年になって村の池を埋め立て建物を建てたので、葦が取れなくなったためにできなくなった。経済開発区にある企業が埋め立てて建物を建てた。豆腐は今でも作っている。
- 「解放」前、村外へ出稼ぎに行く人は少なかった。その頃の生活程度は良かった。
- 当時の村の主な作物はトウモロコシ、小麦、大豆、綿花、高粱など。
- 「解放」前から村には廟や祠堂はなかった。L村にはあった。この村の人もL村の廟へ行っていた。

農業集団化

- 村で互助組が成立したのは1952年、初級社は1955年、高級社は1958年^[4]。
- (1958年は人民公社ではないか、との質問に対し) 高級社こそが人民公社である。
- エゴの家も互助組に参加した。家が近い人同士で組を組織した。親戚ではない。
- 一緒に互助組に参加したのはCYF(貧農)、PBS(貧農)、YZ(富農)(エゴがここでYZも富農だったことを思い出した。つまりエゴの他に村に富農は3戸いた)。互助組では農業をした。
- 富農を互助組にいれたくない感情が貧農たちにあったが、この組では特に問題なかった。村の富農は皆互助組に参加した。
- 互助組は自発的に参加した訳ではなく、幹部が組織して参加させた。結果、村の全員が参加した。望むと望まないに関わらず必ず参加しなければならなかった。
- 「解放」前にも互助慣行はあったが、決まった相手はおらず、時によって異なった。
- 合作社にはすぐに参加をした。村の人は全員参加をしたし、高級社時期も含め、一旦参加した後に退社した人はいなかった。

(2) LHX

2014年9月20日 午後

インフォーマント年齢: 82歳 酉年 「解放」時点で16歳。

エゴについて

- 学校は村の小学校に4年通った。父が病気で家に労働力がなかったため中学には行かず、その後は村で農業をしていた。
- その後、大躍進とその後の「三年困難」の後、東北に行き、林業に従事。木の伐採をした。1965年に退職し、県城の水利局で働いた。1990年に退職後村へ戻ってきた。
- 「解放」の時の家族は7~8人。両親の他、姉が1人、妹が2人、弟1人。土地改革の時には25~26ムーの土地があり、中農になった。悪い土地が取り上げられ、良い土地を分配された。
- 土地改革の後、人を雇うことができなくなったため家族全員で農作業をした。

農業集団化

- 互助組は1956年に成立^[5]。エゴはすぐに参加した。望むと望まないとに関わらず村の人は皆参加しなければならなかった。
- 互助組に参加して生活に如何なる変化があったかは覚えていない。災害の影響が大きかった。当時10年のうち8~9年は水害が発生した。合作社ができてから集団で水利整備をした。これは所有する土地量に応じて労働力を出すもので村全体が参加。その後水害は減った。
- 初級社は1村ではなく、8~10村で組織した。社名は湖南社。后湖という湖があったため。社長がどこの村の人だったかは覚えていない。
- 初級社、高級社の頃、社内の組織は生産隊ではなく作業組と呼んだ。人民公社になってから生産隊と呼ぶようになった。
- 互助組は村にいくつあったか覚えていない。20組くらいか。互助組は自由に組んだ。
- 高級社は郷に2社あった。郷の西部に1社、東部に1社である。高級社の名前は忘れた。
- 人民公社は県全体で40~50社あった。
- 互助組を組織する前、個人同士の助け合い(互相幫助)はなかった。
- (農業などの助け合いはないのか?と改めて聞いたところ)あった。それは個人の感情に基づくものだ。(それは互助組と同じものか?と聞いたところ、しばらく考えた上で)形式的には基本的に互助組と同じもの。

- 個人でやっていた時には、労働で返すのではなくお返しに食事をさせるなどした。互助組になってからはこのようなことはなくなった。
- (旧来の互助と互助組は同じ人で行ったのか? という質問に対して) 互助組になり、旧来の助け合いよりも人数が多くなったため、旧来の互助と重なることもあるが、重ならないこともある。
- 合作化は失敗だった。経済と思想は異なるものであるのに、合作化は思想により行った。早くやりすぎた。
- (では合作化で生活は悪くなったのか? という質問に対して) 水利を整備したため、「解放」前より良くなった。
- 「三年困難」時期はとても悪かった。たくさんの人が餓死した。1958～1960年に公共食堂があったが、食べ物は何もなかった。

看青（作物の見張り）について

- この村では看青は護秋と呼んだ。看青は口語であり、正式には護秋である。
- 護秋は合作社や人民公社時期を通じて、改革開放まで存在した。会が雇っていた。合作化した後は生産大隊が雇った。
- 護秋は、本村の人から「大公無私」で品德がある人が選ばれた。幹部が推薦する。昔は会を選んだ。
- 会について。会には会首がいた。会首と村長は同じものである。会首はまず土地がたくさんあることが条件で、その中から選ぶ。
- 「解放」前と「解放」後で護秋をする人の性質や条件に変化は無く同様。
- 1950年代には村で2人の人が護秋をしていた。彼らは40～50歳くらいの人。
- 「解放」前、護秋の賃金は土地に応じて負担。土地を持たない人は負担しない。他村の人が持つ土地はなかった。
- 合作社、人民公社の時期には賃金を支払う代わりに工分（労働点数）を付けた。

(3) CJF

2014年9月20日 午後

インフォーマント年齢：85歳 巳年 「解放」時点で16歳。

エゴについて

- H村の私塾に7年通った。その後、1947年に東北で1年間戦争に参加。参加は自発的

に。1948年に村に戻ってきた。東北の戦役が終了した後、南下はしないで村に戻った。その後、村で農業。

- エゴを含めて、村から戦争に行ったのは3人いたが、他に誰がいたか忘れた。抗米援朝には参加しなかった。農業をしていたため。
- もともと家は豊かだったが、土地改革の頃には父親がアヘンなどに浪費をしていたため、貧しくなっていた。そのため土地改革では貧農になった。
- 土地改革の時点で6人家族。両親とエゴ、姉、妹、弟。家畜もなく農具もなかった。
- 土地がどれだけあったかは覚えていないが、とにかく貧しかった。恐らく土地は全くなかったのでは。土地改革で12.35ムーの土地を分配された。
※ここでエゴはもともと他の村の人だったことが判明。
- もともと、同県内でここから12里離れたS村の人だった。母方の祖母がD村の人で、地主・富農だったため7歳で引っ越してきた。

副業、出稼ぎ、逃災

- 副業は蓆を編む副業をしていた。
- 村の多くの人が災害から逃げて東北へ逃げた。
- エゴの弟は北京に行って靴下工場で働いた。「解放」前から村から北京に行く人は多かったが、天津に行く人はいなかった。北京に行く人が多かったのは、先導して行く人がいたため。弟は今も北京にいる。

集団化時期

- 人民公社の頃、エゴは「專業隊」の隊長を担当した。專業隊は16人くらいの人が参加した（どうやら專業隊は村内の農業模範のような存在と思われる）。
- 專業隊は専ら農業をしていた。隊長になったのは農業の能力があったから。
- 隊長としての仕事は、県の会議に参加をすることや、植え付け・収穫の前に会議を開くことなど。隊長をやったのは1年だけであり、隊が解散したため隊長の役割も終わった。

(4) CLF

2014年9月20日

CLFは村の会計。会計になって6年余り。村の人口、耕地面積など、村の概況について質問をした。

- 村の人口は現在424戸、1,200人余り。
- 耕地は2,500ムー。トウモロコシや小麦を植えている。商品作物は少ない。基本的な産業は農業。
- 出稼ぎは北京や天津が多い。東北、承德、山東省、河南省もいる。
- (村内で牛を飼う家が多いが、いつからか?と質問したところ) 昔から多い。ただ、最近増えてもいる。豚を飼う家もいる。
- 村内に服飾工場があり、最近2~3年はそこで働く人も多い。

2 河北省唐山市豊潤区X村

豊潤区はもともと豊潤県であったが、現在は唐山市の一区となっている。唐山市の中心部に比較的近く、現在では唐山北駅が位置するのも豊潤区である。X村は豊潤区の中心に比較的近く、都市近郊農村といった様子を呈している。

(1) WKF

2015年8月5日 午後

インフォーマント年齢: 83歳 酉年

エゴについて

- 1940年、8歳の時から郷の中心小学校に通った。その後、土地改革の頃にはL県師範学校に通っており、村にいなかった。
- 父親は北京師範大学卒業。
- 妻はZSQ。5里ほど離れた隣の鎮から嫁いできた。その鎮から嫁いできた人は、本村には多くもないし少なくともない。
- 結婚の経緯は同じ互助組の人が紹介してくれた。紹介してくれた人とは関係は良かったが、互助組が組織される前から一緒に労働をしていた訳ではない。

村の「解放」と土地改革

- ・村は1948年12月12日に「解放」。1949年秋に土地改革を行った。
- ・土地改革は「和平土改」。闘争は行わずに土地を分けた。商工業を保護した。
- ・エゴの家は当時9人家族で土地は11ムー。中農になった。
- ・村に地主・富農は合わせて十数戸いた。彼らは今はまた豊かになっている。
- ・(地主・富農はなぜ豊かだったのか、という質問に対して) 商売をやっていた。色々なところへ行って売り買いをしていた。
- ・村の地主は皆良い地主で、土豪はいなかった。地主と他の村民の関係もとても良かった。しかも土地改革も和平土改だったので、地主は自発的に土地を差し出した。
- ・地主たちは土地改革後には商売はできなくなり、農作業だけするようになった。
- ・地主や富農は読み書きもできた。

農業集団化

- ・土地改革後、1954年に互助組が開始した。互助組の内容は相互の助け合い(互相帮忙)。4~5戸, 7~8戸で組織した。
- ・互助組の参加は自由。エゴは6戸からなる互助組に参加をした。大きいところは十数戸からなる互助組もあった。
- ・村全体で3つの組があった。なお当時村全体の戸数は70~80戸。
- ・(互助組の前に自発的な互助活動はあったか?と聞いたところ) なかった。
- ・(お互いの助け合いなどはなかったのか?と確認したところ) 忙しい時に手伝いし合うのはあった。それは帮忙だ。感情に基づくもので、関係の良い人同士でやる。
- ・関係が良い人と互助組をやったため、年齢が異なったり、経済程度が異なったりすることはあった。
- ・(それに対して不公平と思う人はいなかったのか?という質問に対して) どうやっても完全に公平になることはないのだから、差があっても良い。「看人情」だ。
- ・地主や富農は成分が悪くて互助組に入れなかった者もいたが、入った者もいた。
- ・1955年、初級社が成立。これは自発的に参加をした。土地を出資し、農具は個人所有とするもの。自発的参加だったため、初級社は参加しなかったものもいた。参加しなかった理由は合作社に入って労働するのが面倒だと考え、参加しなくなかったため。幹部は参加するよう働きかけたが、それでも自発的な参加だった。
- ・1956年10~12月頃、高級社が成立した。これは自発ではなく、皆入らなければならなかった。高級社は他村の初級社と合併して成立した。郷全体で1つの高級社。

- 高級社では作物は「人4労6」で分配した。家族の数で全体の4割、労働力で全体の6割を分配するというもの。これで食べていくには十分だった。
 - 他村とともに合作社を組織することについて、大きな問題はなかったが、「あの村は良く労働するのにこの村はあまり労働しない」などの小さな問題はあった。
 - 1958年、人民公社の成立。これもたくさんの村から組織した。1958年に食堂が成立し、「大鍋飯」を食べた。1982年に請負制により解体された。
 - 互助組を組織したころは生活が良くなったが、合作社になって悪くなった。食糧の生産量が減った為。当時村の主要な作物は小麦、トウモロコシ、大豆など。全て家で食べた。
 - (なぜ生産量減ったのか?との質問に対して) 高級社になると作物は統一分配だった。そのため生産量が増えても個人の収入は増えない。しかし、生活が安定して平等になった為、あまり不満はなかった。
- ※この回答から判断すると、上の「食糧の生産量が減った」は正確には生産量ではなく個人の収入が減ったことだと思われる。

副業について

- 個人経営の頃、村では車で荷運びをする副業があった。これは集団の副業ではなく個人の副業。鍛冶屋の副業もいた。個人の煉瓦焼きもいた。
- 副業をしない家の方が多かった。
- 合作社が成立してから、集団で行う煉瓦焼きの副業が始まった。

村の寺廟について

- 村にはもともと観音閣、薬王廟、竜王廟、関公廟の4つがあった。今は全てない。
- 寺廟は全て一度に壊したわけではなく、必要に応じて徐々に壊していった。跡地は政府や学校になっている。
- これらの廟は端午節の時に全ての廟で廟会があった。
- 4月4日には薬王廟で鉄器会があった。これは県全体から鉄器を扱う人が集まり売り買いをした。「解放」後になくなった。
- 廟の管理をする人(看廟的)がいた。豊かな人の家族などが金を出して人を雇い、管理させる。廟会は村民が自発的に金を出して行っていた。廟会の参加も自発的なものであり、参加しないものもいた。現在、村に信仰がある人はいない。現在、廟会のような活動もない。以前は春節に秧歌などの活動もあったが、今はなくなった。

村の姓について

- ・村にはW姓(インフォーマントと同じもの)が多い。しかしもともと1人の祖先から分かれたものではなく、数系統ある。X姓やM姓もいる。他は少ない。
- ・村に祠堂はない。もともと一族の墓地はあったが、全てつぶして農地にした。

3 河北省唐山市豊潤区Q村

(1) MYM, ZDP, MYC

2015年8月6日 午前

インフォーマント年齢: 71歳酉年(MYM), 77歳(ZDP), 68歳(MYC)

※インフォーマントの3人は従兄弟同士。当初MYMに聞き取りをする予定であったが、ZDP, MYCがやってきたので3人から聞き取りをすることとした。主な受け答えはMYM。

エゴ(MYM) 及び村について

- ・10歳の時から6年間、村の小学校に通った。その後、村で農業をしていた。
- ・改革解放以降、大隊のセメント工場で働いた。なお、Q村周辺は現在もセメント工場が多く立ち並ぶ地域である。
- ・村にM姓は100戸ほど。他にも色々な姓があり、特に大姓はない。
- ・本村は郷で一番大きな村。現在1,000戸余りの住民がいる。
- ・(これまで一番良かった時期と悪かった時期はいつか?という質問に対して) 良い時期は今である。悪い時期は「三年困難」時期。村で飢え死にした人もたくさんいた。
- ・1959年に共同食堂が作られた。大躍進では土法高炉のために金属を供出し、家に鍋がなくなったため食堂に行かざるを得なかった。

村の「解放」と土地改革

- ・村の「解放」は1945年。土地改革は1948年。
- ・MYMは当時6~7人家族。父母、兄、エゴ、弟、妹など。貧農だった。父は地主や富農の土地で農作業をしていた。相手は決まっていた。
- ・土地改革では2ムーの土地を分配された。村に土地は少なかった。
- ・地主は100ムーほどの土地を持っていた。村の土地のほとんどは地主のものだった。
- ・村には地主富農を合わせて数十戸いた。彼らの子孫はまだ村にいる。
- ・地主富農の子孫とエゴたちの関係は今は普通。以前も悪いものではない。

- ・地主が豊かだったのは親から引き継いだから。また、商売をしていたためでもある。商売をしていた場所は村の内外の様々なところ。
- ・土地改革では地主富農に対する闘争があったが、家族の人数に応じて地主富農にも土地は残した。土地改革の闘争大会は川原でやったが、とても熱狂的で楽しかった。

農業と副業

- ・今の村の主要な作物はトウモロコシ。昔は高粱、粟、サツマイモ、大豆など。
- ・(50～60年代に村にどんな副業があったか？という質問に対して) なかった。副業は80年代に始まった。
- ・(鍛冶屋をやるものなどはいなかったのか？という質問に対して) 鍛冶屋はいた。車で荷運びをするものもいた。MYM, MYCは副業しなかった。ZDPは生産隊の頃に車で荷運びをした。
- ・出稼ぎ先は東北や北京など色々なところへ行っていた。

農業集団化

- ・村の互助組は1955年、初級社が1956年、高級社が1958年。人民公社は1959年から準備し、1960年に成立した。
- ・互助組は自発的に組織された。そのため参加しない人もいた。
- ・互助組に参加しなかった人は初級社にも参加しなかった。その人の成分は貧農。
- ・(その人は高級社には参加したか？という質問に対して) 高級社の頃は既に死んでいた。
- ・互助組の規模は2～3戸程度。村全体でそもそも皆「差不多」であり、どの家も経済的に大きな差はなかった。その上で、関係が良いもの同士で組織した。今も嫌いなものとは助け合いはしない。
- ・互助組は村に40～50組あった。合作社時期の生産隊は24隊あった。
- ・初級社は村に5～6社あり、高級社は1村1社だった。人民公社になって他村の合作社と合併した。
- ・自分が参加していた初級社の社名は覚えていないが、社長の名前はWHY。貧農。高級社で書記となり、80年代に死んだ。彼はまた老軍人で老党员であった。
- ・WHYは「政治的人」であり、一般庶民に擁護される人であった。
- ・(合併は村々が自発的に相手を選んだのか、上が決めたのか？という質問に対して) 上が選んで合併させた。
- ・人民公社では人6労4で分配。この比率は会を開いて皆で話し合って決めた。

- ・村の地主富農は皆合作社に入社した。その理由は、彼らは人民民主独裁の対象であり、上の話はよく聞いて従ったから。

日本軍について

- ・日本軍は子供に対しては対応は悪くなかった。お菓子などをくれた。
- ・村には八路軍を探すためや、物を奪うために時々きた。しかし村に八路軍はいなかった。
- ・日本軍は村の普通の若者を「八路軍だ」と言って殺すことがあった。手を見て、村の会計など労働しているように見えない手の人を八路軍だと言って殺した。当時村から若者は逃げて行った。

村の廟について

- ・村の廟は大きい廟の他、東西南北に小さい廟があり、関帝廟もあった。
- ・大きな廟は観音廟。なぜこんなにたくさんの廟があったのかは分からない。
- ・廟会はなかった。もともとなかった。3里離れたS村というところでは毎年4月18日に廟会があった。そこに行って香をあげて物を買った。
- ・観音廟には1人和尚がいた。和尚がどこの人だったかは覚えていない。小さな廟は誰も管理する人はおらず、地主などが金を出すこともなかった。
- ・本村には現在廟はないが、近くの村は最近廟を再建している^[6]。その村では数人の金がある人が資金を出した。本村には金がなく、このような計画はない。

4 河北省秦皇島市盧竜県 X 村

(1) CLC, CYC

2015年8月7日 午後

72歳, 申年 (CLC)。学校には6年間通った。

※聞き取りの主な回答はCLCによる。また、本聞き取りでは自然村(荘)と行政村が混乱しやすいが、単に村と表記してある場合は自然村、行政村と明記した場合は行政村のことである。

村の「解放」と土地改革

- ・本村の「解放」は1947年。土地改革も同年に行われた。
- ・土地改革の頃の人口は180人。現在は66戸231人。
- ・本村の土地改革は「比較的和平土改」。闘争はあったが、地主を死なせたりはしなかつ

た。

- 本村，一番上が上中農で，地主や富農はいなかった。上中農も，必ず上中農を探さなければならなかったから上中農に選ばれた。
- エゴは貧農であった。当時6人家族で，土地改革前には1人当たり1.5ムーの土地があった。土地改革後には1人あたり3ムーになった。土地改革で生活は良くなった。
- 土地改革の後，成分が変更されたものはいなかった。

漏闘戸と錯闘戸について

- 漏闘戸は本来闘争される対象だったのに闘争から漏れたもの。錯闘戸とは本来闘争対象ではなかったのに誤って闘争されたもの。村にはどちらもいなかったが，同じ生産大隊に漏闘戸がいた。
- 漏闘戸は1952年に発見。しかし改めて闘争はせず，財産の没収もなかった。

3個荘1个村

- 本村は3つの荘（自然村）が集まって1つの村（行政村）となっている。生産大隊は3つの荘を合わせて1つだった。
- それぞれの荘はX荘（中心。行政村と同名），C荘（エゴの村。なお村名はエゴの姓と同じ），H荘。距離はそれぞれ500mほど。
- 生産小隊の数は荘によってまちまち。エゴの村は1つだが，他の村は3つと2つ。
- 3個荘1个村は，荘が始まった時からずっと。村長は全体で1人。各荘からは少なくとも1人の「代表」を出す。村は陝西からの移民によって作られたという伝承があり，恐らくは3荘の人は陝西でもともと同郷同士であり，そのため3つの荘で1つの村になったのではないだろうか。
- 「解放」前には保長がいた。地主。彼は日本軍とも国民党とも渡り合うすごい人だった。
- エゴの村からも50年代に村長を出した。彼は商売をしており文化がある人だった。
- エゴの村ではQ姓とC姓が多い。中心の村は雑姓村。

農業集団化について

- 1953年に互助組を組織。1955年に初級社。1958年に高級社を組織して，すぐに人民公社になった。
- 互助組の組織は自発的なものではなく，制限があった。1年目は自発的に組織されたが，2年目には強制になった。

- 1953年までは土地の売買は自由にできたが、互助組が成立してから売買できなくなった。
- 初級社は1荘1社。初級社は特に名前はなかった。
- 高級社は新豊社という名前であり、鎮全体の東半分が参加した。
- 高級社の辦公室は、5里離れたD村にあった。
- 1983年、土地の分配をして人民公社解体。
- 大躍進の失敗により、1960年には村で15人が餓死した。
- エゴが参加した生産小隊は上中農だけが参加し、耕地15~20ムーの土地があった。
- 生産大隊には地主がいた。

井戸掘り

- 1954年に水不足が起き、集団で井戸掘りをした。それまで共有の水源はなかった。
- この井戸は生産小隊の井戸である。大隊の井戸は1970年代になってできた。
- 井戸掘りは生産隊で相談して行った。掘った後、4晩にわたって祝いが行われ、影絵劇などが上演された。この井戸は1960年代に機械式の井戸が掘られるまで使われていた。
- 機械式井戸のお金は県の水利局がだした。村から1級ずつ上に請願をした。

副業

- 互助組前、村には副業はなかった。
- (車を使った荷運びなどはなかったか? という質問に対して) 当時は車を持っているだけで大したことだった。
- 生産隊ができてからは、粉挽きの副業ができた。

村の廟

- 「解放」前、村には小土廟があった。3つの荘のうち2つに土地廟があった。
 - 廟は1949年に壊した。X荘(本行政村の中心)で廟は壊したが、廟にあった大きな槐の木は残っている。これは古いもので、村の最初の移民が植えたものかもしれない。
- ※木は現存し、筆者も確認。木の根元周辺はコンクリートで固められ、2015年に「明万曆初年(1583年)趙氏由陝西到此開荒立荘因地処兩小山峰之間遂名X」と記されている。これは村に残る1986年の石碑と同文である。

5 河北省唐山市灤南県 Z 村

(1) WLW, ZYQ

2015 年 8 月 8 日 午後

76 歳, 辰年 (WLW)。73 歳未年 (ZYQ)。

※主な回答は WLW による。

エゴについて

- WLW の父親は農民で、主に高粱や稗を植えていた。これらの作物は村の皆と同じ。
- WLW, 10 歳の時から 6 年間高級小学校に通った。卒業後は、村から 30 里離れた B 村の農場で働いた。ここは国営農場で、2 年間働いて村に戻った。
- 農場で働いたのは、従業員募集があったため。この村から行った人は他にも多くいた。
- 農場は月給制で、労働者の等級ごとに賃金が異なる。1 級は月 29 元。2 級は月 33.06 元。3 級は 33.7 元だった。エゴは 2 級だったが、これは当時としては良い給料だった。
- 村に戻った理由は、家が生産隊から自留地を分配されることになったが、村に戻らないと自分の分が分配されないため、村に戻った。このために当時多くの人が村に戻った。

村の「解放」と土地改革

- 村の「解放」は 1949 年。1950 年代に入ってから土地改革が行われた。
- この村では、もともと富農にされたが上中農に変更され、土地を返還されたものがいた。多くはない。
- 村に地主は 1 戸だけ。富農は少なくとも、7~8 戸いた。彼らの子孫は皆村にいて、農業をしている。なお富農たちは親戚同士ではない。
- WLW は富農だった。富農であるため、兵士になることができないことや、学校に行かれないなどの不利益があった。ZYQ は中農である。
- WLW の家族は土地改革の時には 8~9 人。土地の量は覚えていない。1~2 人の人を雇っていたため、搾取していると見做され、富農にされた。雇った人は隣村から雇っていた。
- 土地改革では 1 人当たりの基準量に照らして土地を残された。家は半分没収され、家族は残った部分に住んだ。

農業集団化について

- 互助組、初級社がいつから組織されたかは良く覚えていない。どちらも、成分が悪いも

のは入れたがらなかった。

- 互助組の時は村の富農は誰も参加することができなかった。初級社も成立してしばらくは同様。最終的には参加することができた。最終的には村の全員が入社した。
- WLW は、互助組や合作社に参加できない間、参加したいと思っていた。
- 初級社は村に1つ。名前はZ社(村名)。生産隊は村に3つあり、WLW もZYQ も両方とも第1隊だった。これは住んでいる地区を基準に生産隊を分けたからである。
- 高級社の組織された時期も覚えていない。高級社は4~5村で1社を組織した。鎮全体で1社という訳ではなく、鎮にはいくつかの高級社があった。
- 人民公社は1958年に組織された。人民公社には村の全員が入社した。また、人民公社になると1鎮1社の規模になった。初級社・高級社時期を通じて、一旦参加した後に退社をした人はいなかった。人民公社では土法高炉で製鉄をし、共同食堂で食事をした。

副業について

- エゴたちは生産隊で蓆を織る副業をした。その前にはこれらの副業はなかった。
- 土地改革前、村に商売をする人はいたが多くなかった。
- 「解放」前の出稼ぎの行き先は楽亭県(現在唐山市内)や昌黎県(現在秦皇島市内)や東北があった。楽亭県は土地が多いので雇農になりに行った。

人民公社解体以降

- 1980年代に土地を分けた際、1人当たり1.6ムーを基準に分配された。これでは土地が少なくやっていけなかったため、皆商売を始めた。これは現在も同様であり、皆出稼ぎか副業をしている。農業が副業化している。これは、機械化により人手が必要なくなったためでもある。村の近くに製鉄所があり、そこへ行く人がある。

村の廟について

- 村には大廟と小廟があったが、何の廟だったかは忘れた。恐らく仏教だったと思う。今は村に廟はない。廟を解体した際、建材として他の村にあげた。
- エゴたちは、毎月1日、15日など、決まった日に村の廟へ参拝に行っていた。廟に和尚はいなかった。
- 「看廟的」はいた。しかし、それがどこの人だったかは覚えていない。「解放」前から廟会はなかった。10里ほど離れた村では廟会あった。そこに行ったことはある。
- 現在、15里ほど離れた村には廟がある。これは10年ほど前、その村の金持ちがお金を

出した。そこでは現在廟会があり、和尚もいる。また、廟ができた時には劇の上演もあった。

おわりに——考察に代えて——

以上、2014年・2015年の2度にわたる聞き取り成果をまとめてきた。聞き取り対象としては貧農から富農まで幅広く、また外で仕事をしていた人、元教師、ずっと農業をしてきた人など、様々な対象に聞き取りを行うことができた。最後に、聞き取りの中で特徴的だった事柄をいくつか述べておきたい。

1つは、農業集団化に対する農民側の理解である。例えばLQHの回答では高級社と人民公社が混同されているし、LHXの回答でも互助組と合作社の混同が見られる。このような混同は、単なる記憶違いである可能性もあるが、農民の互助観を示すものである可能性もあり、引き続き調査を進めたい。

2つ目は、副業である。旧来華北の村落では、副業が多い地域もあったが、ほとんど副業が見られない地域もあった^[7]。今回聞き取りを行った地区でも、もともと副業があったところもあったが、灤南県Z村などではほとんど副業がなかったとされている。また、副業があったと返答された豊潤区Q村などでも、一旦「なかった」と答えた上で、確認をしたところ「やはりあった」と返答されている。これも農民の副業観を表すものと考えられ、このような地域では副業があったとしても主要な地位を占めていなかったと思われる。

農閑期の副業は互助合作化の過程で中共が推進を図るものでもあり、人民共和国時代の副業と旧来の社会が如何なる関係にあるかを考える上でも重要である。引き続き調査・考察を進めていきたい。

唐山市を中心とする農村調査は、次年度以降も引き続き行う予定である。今回聞き漏らした問題も含めて、引き続き聞き取り調査を進めていきたい。

付記：本稿は平成27年度科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による成果の一部である。

注

[1] 中国農村慣行調査刊行会編『中国農村慣行調査』第5巻、岩波書店、1957年参照。

[2] 浜口允子「建国期中国農村における国家意思の浸透」『放送大学研究年報』13号、1995年、61～73頁。

[3] 昔の中国では女性は結婚すると自分の姓と嫁ぎ先を重ねて、〇〇氏と名乗った。この場合LL

氏とはL姓からL姓へ嫁いだということ。ちなみにこの2つのLは同姓であり, 同姓から同姓へ嫁いだものと思われる。

- [4] 初級社は正式には初級農業生産合作社, 高級社は高級生産合作社であるが, 本稿では初級社・高級社で統一する。
- [5] (1) LQH の, 互助組が1952年に成立したという回答と食い違いがあり, また一般に1956年は既に高級合作社が成立する頃であり, 互助組の成立としては非常に遅い。その点を改めて質問してみたところエゴは言葉を濁してしまい, はっきりしなかった。恐らく記憶違いと思われ, エゴが互助組と合作社を混同している可能性がある。
- [6] この聞き取りの後に筆者も訪問したところ, 非常に大規模な仏教寺院であった。
- [7] 中国農村調査刊行会編『中国農村慣行調査』第4巻, 岩波書店, 1958年, 353頁。同1巻, 87頁他。

(この ー ただし ー 日本学術振興会特別研究員)